

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 18日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520210

研究課題名（和文） 平安時代初期の文筆活動と国際交流の基礎研究

研究課題名（英文） A STUDY ON THE *BUNPITSU*-ACTIVITY IN THE EARLY PART OF THE HEIAN PERIOD AND INTERNATIONAL EXCHANGE

研究代表者

高松 寿夫（TAKAMATSU HISAO）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：40287933

研究成果の概要（和文）：

平安時代前期の漢詩文集、とりわけ『菅家文草』の諸本調査を行い、本文の異同、諸本の系統についての検討を行い、新たな見識を得た。2種版本（寛文版本・元禄版本）の本文異同については、漢詩部分（前半6巻）については、一覧にした冊子も作成した。渤海使関係詩の注釈作業を行ったが、その際にも、『菅家文草』諸本調査の成果が役立った。渤海使関係詩の注釈成果は、『早稲田大学日本古典籍研究所年報』誌上に公表した。

研究成果の概要（英文）：

We have studied anthologies of Chinese-style poetry and prose in the early part of the Heian period, mainly Kanke-Bunso composed by Michizane Sugawara, and finally gained new insights: checking up on copies of various manuscripts and an original print, finding differences on the texts among the copies and reviewing them genealogically. We have compiled some differences on the poem's texts in the first six volumes between the two typed original prints, the one printed at Kanbun days and the other at Genroku in the Edo period, in a booklet in a view format.

While we have also annotated some poems related to envoys from Bo Hai, the review results on KankeBunso was very helpful for its work. We have published the annotating results to their poems in annual reports(2009-2011) of Research institute of Japanese classical books, Waseda University.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：菅家文草 渤海使 平安時代漢詩文 奈良時代漢詩文 懐風藻

1. 研究開始当初の背景

2003年以來、有志による研究会「渤海使関係詩研究会」(2006年度以降、研究代表者(高松)が所長を勤めた早稲田大学プロジェクト

研究所「日本古典籍研究所」主催)では、平安初期の日本の文人と渤海使との交流の賜物である漢詩の数々を年代順に読解してきた。まずは勅撰三詩集掲載のものから始まり、

2007年からは、元慶7年(883)度の渤海使関係の作品を中心に読み進めている。その折の日本側の主要文人には菅原道真・島田忠臣らがいるが、とりわけ菅原道真の存在は大きい。勅撰三詩集の本文については、古くは『群書類従』をはじめ、近時は小島憲之氏による注釈等にいたるまで、比較的先行研究に恵まれ、本文に関する情報もある程度揃っているのに対し、菅原道真の詩文集『菅家文草』には、依拠すべき校訂本文が未だ存在せず、読解には著しい困難を伴う。『菅家文草』は、近世には版本(寛文版本と元禄版本)が流布したが、明治以降、活字本の完本としては『北野文叢』本(明治43年刊)と『古典文学大系』本(昭和41年刊)のわずか2種類が出版されたに過ぎない。中でも川口久雄氏による後者は充実した内容を有するが、諸本間の校異についての情報は、充分とは言えず、注釈にも不審が残る。平安時代前期を代表する一否、日本の文化史を代表するとも言える菅原道真の詩文集『菅家文草』の校訂本文づくりは、平安時代の文化・歴史に関心を寄せ、研究する者にとって、必須の作業でありながらも(おそらく本文の膨大な規模と難解さゆえ)、成し遂げられないまま今日に至っている。その校訂本文・注釈の作成と、その一般・学界への提供は、きわめて意義ある研究である。2008年春、「日本古典籍研究所」は、「平安朝漢詩文総合データベース」の公開にこぎつけた。このDBは、電子検索可能なDBとしては、平安時代漢詩文集を扱った日本で初めての試みで、Web公開により、広く諸方面に便宜提供している。ここに『菅家文草』他新たなテキスト・データが加わり、一層のデータの充実が実現することも、今後の研究に資するところが大きい。道真の作品に限らず、この頃の文筆活動の成果は、現在いうところの狭義の文学にとどまるものではなく、あるときには外交などの政治的機能を有し、また宗教的・思想的側面も蔑ろにできない。それら総合的観点に立った評価が求められており、関係諸分野の専門家による共同検討が必要と考えた。

2. 研究の目的

2003年度以来、有志によって進めている渤海使関係詩の読解作業を継続して進める。本研究の研究期間は、『菅家文草』掲載の漢詩文の検討が中心になるが、本文に関する情報が十分に知られていない『菅家文草』の諸本調査を行い、従来にない十全な諸本情報に基づく読解を実現させる。読解作業の成果および調査によって明らかとなった『菅家文草』諸本に関する知見を、広く学界に報告する。その他、平安時代前期までの主要な漢詩文テキストの諸本調査も併せて行い、8世紀～9世紀日本における漢詩文をめぐる状況への

広い視野を養う。

3. 研究の方法

(1) 諸本調査と校本作成

『菅家文草』寛文版本(以下「寛文版本」と略称)を底本とする校訂作業を進める。開始にあたって、寛文版本全文の画像取り込み・電子テキスト作成を行い、引き続き『菅家文草』元禄版本(以下「元禄版本」と略称)との校合作業を行う。両本の本文異同の傾向を確認しつつ、国文学研究資料館等、首都圏諸機関で現物・マイクロフィルム・写真版等で閲覧可能な諸写本(蓬左文庫・多和文庫・三手文庫・石川県立図書館川口文庫・内閣文庫等)・刊本(寛文版本・元禄版本以外に貞享・天保・弘化・無刊記の諸版本あり)について調査を行い、各本のおおよその本文傾向を把握する。各地の文庫等に所蔵され、マイクロフィルム等では調査できない諸本(尊経閣・慶應義塾大学斯道文庫等所蔵)については、出張調査を行う。諸本調査は、研究代表者・分担研究者・連携研究者を含む研究所研究員および大学院学生その他が分担して行い仮校本を作成する。

また、8世紀～9世紀成立の日本漢詩文テキスト(六国史・『懷風藻』等)の諸本についても、適宜調査を行う。

(2) 渤海使関係詩読解

渤海使関係詩読解のための研究会を隔月1回開催する。各回1つの作品をとりあげ、担当者1名が、注釈の粗稿を用意して報告し、それに対して参加者が意見を出し合い、共同討議により注釈の文言を確定して行く。翌月の回では、その回にとりあげる作品の報告に先立ち、前回の検討を踏まえた改稿を披露し、注釈原稿を完成に近づける。施注に際しては、先行研究(大系本はもちろん、その他の著書・論文中の指摘、および近世の注釈—『本朝一人一首』、版本への書き込み等)への目配りも心がける。

(3) 平安朝漢詩文DB

平安朝漢詩文DBについては、すでに公開されているコンテンツの微調整・メンテナンスを行う。

4. 研究成果

(1) 諸本調査と校本作成

調査に赴いた諸機関は、次のとおりであった。

- ・国文学研究資料館
- ・国立公文書館
- ・尊経閣文庫
- ・天理大学附属図書館
- ・慶應義塾大学斯道文庫
- ・名古屋市蓬左文庫
- ・名古屋市立鶴舞中央図書館

なお版本は早稲田大学中央図書館蔵本を用いた。閲覧した諸本の書誌情報は、各調査担

当者によってカード化されてある。『菅家文草』諸本の場合、巻1（一部は巻2も）については、寛文版本との校異情報をとって、仮校本が作成してある。寛文・元禄両版本の校異箇所一覧は、漢詩部分（前半6巻）については冊子化した。

『菅家文草』諸本について得られた新知見はいくつかあったが、以下の2点は、特に重要なものとして特記に値すると考える。

- ・現存諸本の共通祖本は、1面（半丁）7行、1行21字詰の冊子本であった。
- ・元禄版本は、寛文版本の覆刻に基づくが、入念な校訂によって優れた校訂本文を提供していると評価できる。

(2) 渤海使関係詩読解

ほぼ予定通り研究会を開催し、討議の結果を反映させた注釈稿を、『早稲田大学日本古典籍研究所年報』第3号～第5号に連載し公表した。『菅家文草』掲載の漢詩10首および『扶桑集』掲載の漢詩1首である。以下、作品の表題のみを掲げる。

- ・菅原道真「訓裴大使留別之什 次韻」（『菅家文草』112）
- ・菅原道真「余近叙詩情怨一篇、呈菅十一著作郎 長句二首、偶然見訓 更依本韻、重答以謝」（『菅家文草』119-2）
- ・菅原道真「見渤海裴大使真図有感」（『菅家文草』123）
- ・菅原道真「客館書懷、同賦二交字、呈渤海裴令大使」（『菅家文草』419）
- ・菅原道真「答裴大使見訓之作 本韻」（『菅家文草』420）
- ・菅原道真「重和大使見訓之詩」（『菅家文草』421）
- ・菅原道真「和大使交字之作 次韻」（『菅家文草』422）
- ・菅原道真「客館書懷同賦交字寄渤海副使大夫」（『菅家文草』423）
- ・菅原道真「和副使見訓之作 本韻」（『菅家文草』424）
- ・菅原道真「夏日餞渤海大使歸、各分一字 探得途」（『菅家文草』425）
- ・菅原淳茂「初逢渤海裴大使有感吟」（『扶桑集』卷七64）

なお、研究会ではこのほかに『本朝文粹』掲載の詩序2篇についても検討したが、なお検討中のため、注釈稿の掲載には至っていない。

(3) 平安朝漢詩文DB

メンテナンスが中心であったが、公開当初に見落としていた誤入力箇所をかなり徹底的に訂正することができたため、公開のDBとして、より良質の情報提供が実現している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計18件）

1. 高松寿夫, 「遷都平城詔」注解—元明朝文筆の解明への手がかりとして—, 比較文学年誌, 査読無, 48, 2012, 59-78
2. 高松寿夫, 平安時代前期の『唐太宗実録』受容に関する覚書, 平安朝文学研究, 査読無, 20, 2012, 90-93
3. 吉原浩人, 慶滋保胤六波羅蜜寺供花会詩序訳註, 早稲田大学大学院文学研究科紀, 査読無, 57(1), 2012, 53-67
4. 吉原浩人, 慶滋保胤六波羅蜜寺供花会詩序考—勸学会詩序との関連において—, 多元文化, 査読無, 1, 2012, 33-50
5. 高松寿夫, 「元明讓位詔」注解—元明朝文筆の解明への手がかりとして—, 万葉集研究, 査読無, 32, 2011, 227-268
6. 陣野英則, 渤海使と平安朝文学 『うつほ物語』の「高麗人」と「おほやけ」, 国文学 解釈と鑑賞, 査読無, 76-8, 2011, 60-67
7. 吉原浩人, 大江以言擬勸学会詩序訳註, 早稲田大学大学院文学研究科紀要, 無, 56（第1分冊）, 2011, 51-65
8. 吉原浩人, 大江以言擬勸学会詩序考—『法華経』の受容と白居易—, 東洋の思想と宗教, 無, 28, 2011, 1-15
9. 高松寿夫, 元明朝の文筆—『続日本紀』掲載「元明讓位詔」を中心に—, 国語と国文学, 無, 87-11, 2010, 143-154
10. 高松寿夫, 漢詩の動作語の豊かさ, 勉誠通信, 無, 23, 2010, 8-9
11. 高松寿夫, 「新しき年の始めの初春の」—『万葉集』の巻末歌, 国文学 解釈と鑑賞, 無, 75-3, 2010, 23-30
12. 新川登亀男, 『飛鳥寺』表記の出現と『飛鳥』の意味, 古代文学, 有, 49, 2010, 19-26
13. 吉原浩人, 紀齊名勸学会詩序考—白居易の仏教思想と十五日開筵の意義—, 水門一言葉と歴史—, 無, 22, 2010, 179-195
14. 吉原浩人, 紀齊名勸学会詩序訳註, 早稲田大学大学院文学研究科紀要, 無, 55（第1分冊）, 2010, 3-15
15. 河野貴美子, 北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』について, 汲古（汲古書院）, 有, 58, 2010, 21-31
16. 河野貴美子, 古代日本における『周易』の受容, 国文学研究（早稲田大学国文学会）, 有, 161, 2010, 22-32
17. 吉原浩人, 慶滋保胤「晩秋過參州薬王寺有感」詩序訳註—白居易詩文撰取の方法（二）—, 水門, 無, 21, 2009, 178-187
18. 河野貴美子, 『弘決外典鈔』音釈小考, 注釈史と考証, 無, 1, 2009, 23-34

〔学会発表〕（計26件）

1. 吉原浩人, 聖徳太子南岳慧思後身説と衡山取經譚の諸問題, 国際シンポジウム「古典籍にみる高僧伝」, 2012. 1. 14, 安徽省黄山市

黄山国際大酒店

2. 新川登亀男, 梁職貢図と仏教, 国際シンポジウム『梁職貢図と倭』, 2012. 1. 12, 国学院大学
3. 吉原浩人, 磯長聖徳太子廟の「廟嶺偈」をめぐって, 水門の会東京例会, 2012. 1. 8, 大東文化会館ホール
4. 河野貴美子, 渤海使在日本古代文学史上的意義, 浙江財經学院人文学院学術講座, 2012. 01. 06, 中国・浙江財經学院
5. 新川登亀男, 百済と日本の飛鳥・奈良における仏教文化, 東アジアの仏教文化と百済 2011. 10. 04, 韓国公州大学校講堂
6. 高松寿夫, 奈良時代の文筆資料としての詔勅, 東アジアの漢籍遺産, 2011. 7. 29, 中国杭州華北飯店
7. 新川登亀男, 『続日本紀』編纂と安史の乱—年号制定記事を中心に—, 東アジアの漢籍遺産, 2011. 7. 29, 中国杭州華北飯店
8. 吉原浩人, 奈良時代における「神祇」の語の受容と展開, 東アジアの漢籍遺産, 2011. 7. 29, 中国杭州華北飯店
9. 河野貴美子, 奈良朝の仏典注釈書にみる漢語読解の方法, 東アジアの漢籍遺産, 2011. 7. 29, 中国杭州華北飯店
10. 吉原浩人, 平安時代の白居易への信仰, 浙江工商大学日本語文化学院大学院「五洲講壇」講演会, 2011. 03. 11, 中国浙江省杭州市浙江工商大学
11. 吉原浩人, 日本古代における「神道」の語の受容と展開, 国際シンポジウム「Combinatory Practices in Japan: Rethinking Religious Syncretism」, 2011. 02. 24, 英・ロンドン大学東洋アフリカ研究学院
12. 河野貴美子, 日本と渤海の交流と文学—日渤応酬詩の意義, 建国大学校シンポジウム「日本古典文学における異文化交流とその展開をたどる」, 2010. 11. 13, 韓国・建国大学校
13. 吉原浩人, 白居易と平安朝文人の錢塘湖孤山寺, 杭州佛学院講演会, 2010. 11. 06, 中国浙江省杭州市杭州佛学院
14. 河野貴美子, 古代中日の仏教書にみる孝思想と孝子譚をめぐって, 杭州仏学院講演会, 2010. 11. 07, 中国・杭州仏学院
15. 高松寿夫, 奈良時代の文筆資料として見た行政文書, 国際シンポジウム「東西文化の融合」, 2010. 10. 31, 大東文化大学
16. 高松寿夫, 奈良時代の詔勅にみる漢籍受容, “多元視野下的中国文学思想” 国際学術研究会, 2010. 09. 25, 中国・北京師範大学
17. 吉原浩人, 神として祀られる白居易—平安朝文人貴族の精神的基盤—, “多元視野下的中国文学思想” 国際学術研究会, 2010. 09. 25, 中国・北京師範大学
18. 河野貴美子, 『三教指帰』古注釈書を通し

- てみる空海の文学と思想の継承, “多元視野下的中国文学思想” 国際学術研究会, 2010. 09. 25, 中国・北京師範大学
19. 河野貴美子, 唐代仏典注釈書にみる「漢字学」—湛然撰『止観輔行伝弘決』を中心に—, 「漢字文化遡源—文字から書籍へ—」, 2010. 09. 11, 中国・鄭州大学
 20. 吉原浩人, 大江以言擬勸学会詩序と白居易, 和漢比較文学会第3回特別研究発表会, 2010. 09. 03, 台湾台北市台湾大学文学院演講庁
 21. 新川登亀男, 唐僧思託の日本国土観, 早大日本宗教文化研究所・中国浙江工商大日本文化研究所共催国際シンポジウム『奈良時代の宗教文化』, 2010. 04. 10, 早稲田大学
 22. 吉原浩人, 南都結縁法華講会の濫觴と展開, 早大日本宗教文化研究所・中国浙江工商大日本文化研究所共催国際シンポジウム『奈良時代の宗教文化』, 2010. 04. 10, 早稲田大学
 23. 高松寿夫, 『菅家文草』元禄版本の本文の性格, 早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系共同シンポジウム「日本古代文学と白居易」, 2009. 07. 25, 早稲田大学
 24. 吉原浩人, 高階積善勸学会詩序と白居易, 早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系共同シンポジウム「日本古代文学と白居易」, 2009. 07. 25, 早稲田大学
 25. 陣野英則, 『源氏物語』「玉鬘十帖」における『白氏文集』引用早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系共同シンポジウム「日本古代文学と白居易」, 2009. 07. 25, 早稲田大学
 26. 河野重美子, 平安前期の日本漢詩と白居易—渤海使との贈答詩を通して—, 早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系共同シンポジウム「日本古代文学と白居易」, 2009. 07. 25, 早稲田大学

〔図書〕(計6件)

1. 高松寿夫, 早稲田大学日本古典籍研究所, 菅家文草 寛文版本・元禄版本校異対照一覽【漢詩篇】, 2012, 304
2. 早稲田大学日本古典籍研究所 (所長: 河野貴美子), 早稲田大学日本古典籍研究所, 早稲田大学日本古典籍研究所年報・第5号, 2012, 82
3. 河野貴美子・張哲俊 (編), 勉誠出版, 東アジア世界と中国文化—文学・思想にみる伝播と再創—, 2012, 366
4. 早稲田大学日本古典籍研究所 (所長: 高松寿夫), 早稲田大学日本古典籍研究所, 早稲田大学日本古典籍研究所年報・第4号, 2011, 71
5. 早稲田大学日本古典籍研究所 (所長: 高松寿夫), 早稲田大学日本古典籍研究所, 早稲田大学日本古典籍研究所年報・第3号, 2010, 60
6. 高松寿夫・雋雪艶 (編), 勉誠出版, 日本古代文学と白居易—王朝文学の生成と東アジア

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高松 寿夫 (TAKAMATSU HISAO)
早稲田大学 文学学術院 教授
研究者番号 : 40287933

(2) 研究分担者

新川 登亀男 (SHINKAWA TOKIO)
早稲田大学 文学学術院 教授
研究者番号 : 50094066

吉原 浩人 (YOSHIHARA HIROTO)
早稲田大学 文学学術院 教授
研究者番号 : 80230796

陣野 英則 (JINNO HIDENORI)
早稲田大学 文学学術院 教授
研究者番号 : 40339627

河野 貴美子 (KOHNO KIMIKO)
早稲田大学 文学学術院 准教授
研究者番号 : 20386569

(3) 連携研究者

後藤 昭雄 (GOTOH AKIO)
成城大学 文芸学部 教授
研究者番号 : 80022284

波戸岡 旭 (HATOOKA AKIRA)
國學院大學 文学部 教授
研究者番号 : 20138142

仁平 道明 (NIHEI MITIAKI)
和洋女子大学 人文学群 教授
研究者番号 : 00042440